



東 俣 野 2月号

東俣野小学校 学校だより 令和3年1月29日

幸せを願って

副校長 大山 高幸

風もなく穏やかな日があったかと思うと、この時期本来の寒さが戻ったりと、気温の変化が大きく体調管理が大変です。お正月もあっという間に過ぎ、早いものでもう「立春」暦の上では春を迎えます。

今年の立春は、2月3日。1985（昭和60）年以来、立春と言えは2月4日でしたが、37年ぶりに日付が変更になります。現在、立春の日の決定は、国立天文台の観測で「太陽黄経が315度になった瞬間が属する日」なんだそうです。ちょっと難しくて意味がわかりにくいですが、簡単に言うと地球から見て太陽が回っているのをイメージして、太陽が315度になった瞬間が立春なのだとか。その瞬間が、2月3日の23時59分、あと1分で2月4日だったわけです。立春が2月3日になるのは、実に1887（明治30）年以来124年ぶり、これには驚きです。

立春の一日前が節分、今年は2月2日が節分です。もともと節分は季節の節目「立春、立夏、立秋、立冬の前日」のことをいって、年に4回あります。しかし、旧暦では春から新しい年が始まったため、立春の前日の節分が重要視され、節分と言えはこの日をさすようになりました。昔は、季節の分かれ目、特に年の分かれ目は邪気が入りやすいと考えられ、豆まきも邪気払いの行事としてやがて定着していきます。「鬼は外 福は内」の声をあげながら豆をまくおなじみの光景ですが、昔から鬼は邪気や厄の象徴とされ、形の見えないものや人間の想像力を超えた恐ろしい出来事は鬼の仕業と考えられてきました。その鬼を追い払う豆には、穀物の霊力が宿っているとされ、その力で鬼を追い払うというわけです。昔から脈々と続く伝統行事には深い意味があると同時に、幸せを願う人々の気持ちは、昔も今も変わらないことを実感します。コロナ禍で悶々とした空気を、豆まきで一気に追い払いたいものですね。